

第8回塩竈市長期総合計画審議会の審議結果概要

日 時	令和3年7月26日(月) 18:30~20:35
場 所	塩竈市魚市場中央棟2階 大会議室
出席委員	柳井会長、草間副会長、佐々木副会長、渡辺委員、丹野委員、下館委員、土井(儀)委員、田中(京)委員、佐藤(京)委員、櫻井委員、今野委員、佐藤(英)委員、江湖委員、三瓶委員、土井(萬)委員、本間委員、大山委員、田中委員、佐藤(浩)委員、阿部委員 以上20名
塩 竈 市	副市長、教育長、市民総務部長、健康福祉部長、産業環境部長、建設部長、市立病院事務部長、水道部長、政策調整監、危機監理監 (事務局) 市民総務部政策課 次長兼政策課長、総合計画策定室長、企画係長、総合計画策定室員
委託コンサルタント	(株)国際開発コンサルタンツ
司 会	次長兼政策課長

1. 開会

2. 会長挨拶

コロナ下でオリンピックが始まり、賛否両論あると思う。本当に社会は予想がつかない。今度の総合計画も第3コーナーを回ってよいよラストスパートだという印象だが、社会の変化に対して柔軟性のある計画として構成されているかどうか。今日はもう一度そういった汎用性・柔軟性をお互い確認し合うことが出来れば良いかなと思う。今日は拳手を中心に発言してほしい。

3. 議事概要

(1) 第6次長期総合計画基本構想素案について

事務局から資料1「第6次塩竈市長期総合計画序論・基本構想(素案)」について、前回からの追加変更箇所や目指す都市像を説明後、意見交換及び質疑応答

①第6次塩竈市長期総合計画序論・基本構想(素案)について

(会長) 只今ご説明いただいた基本構想については、これまでも意見をいただけてきているところであり、今回は基本構想の大きな柱である「目指す都市像」が提案されているので、それを中心にご意見をいただきたい。

(委員) 目指す都市像について、以前示されたものから変わっていくのは当然だと思うが、前回出ていた「結晶で表現された都市像」でなくなった理由を説明してほ

しい。

- (事務局) 前回提案させていただいたのは「食と伝統と誇りが結晶となるみなとまち塩竈」というフレーズだった。審議会委員の方にアンケートをしておおむね了承いただいたが、一方で「” 誇り ” が分かりづらい」「伝わりづらいのではないか」というご意見もあった。よりわかりやすい表現にしたいというのと、「塩竈ならでは」を強調したいという思いがあり、市民ワークショップで提案された「100の暮らし」も踏まえ「海と社に育まれる楽しい塩竈」と改めた。
- (委員) P28の安全安心について。近年大規模災害、浸水災害が発生している。1番の施策の柱の「災害に対するレジリエンス(しなやかな強さ)」という表現がしっくりこない。危機感が感じ取れない。この辺の意図について質問したい。
- (事務局) この表現は審議会委員からいただいた表現を使ったのが一点。あと、国の国土強靱化の考え方では、災害が発生してからではなく、発災前からの取り組みも重視するとされている。本市においても国土強靱化地域計画を策定しており、このような表現としている。
- (会長) 発災前を考えれば事前復興という考え方にもなるのかなと思う。
- (委員) 結晶の都市像が変更になった理由は分かったが、港という言葉がなくなったのがさみしい。「海と社」という表現は他都市でもある。「塩竈だ」というより「港町だ」という意識が皆さんあるんじゃないかと思う。漁港もそうだし、海もそう。都市像からはずしてもいいが、どこかに港町を感じる表現があったほうがよい。塩竈の歴史を考えた時には必要。
- (会長) 事務局いかがか。
- (事務局) 港町は「海」という言葉に包含している。どこかに港町を感じる工夫は重要だと思うので、もちろん施策の中にも「港」という表現は入っているが、都市像の説明文にも入れるなど検討したい。
- (委員) 以前指摘したことだが、P22の塩竈物語について、文章については意見が反映されているが、10年後を考えると絵に関しては古すぎる内容のままなので、楽しさや彩りが伝わる絵のほうが良いかと思うがどうか。具体的にはラジオやスマホが今と変わらないという点などだ。
- (事務局) こちらのタイトルについて、8つの塩竈物語をサブタイトルとした。100の暮らしは現況をそのまま記載しているので、「目指す姿と言うよりは大切にしたいくらいではないか」というご意見をいただいた。それを受けて、イラストは変えずに「大切にしたいまちづくり」という趣旨として文章も表現したい。
- (会長) 具体的な指摘は分かりやすくして良い。
- (副会長) 100の暮らしが未来像とされていたので違和感があった。100の暮らしからのバックキャストではなく、100の暮らしからのフォアキャストにしたらいという整理をした。未来ではなく、今と昔と考えると、それを大切なものと捉えて、そこから先のことを考えるという意見が出ていたので、「未来に続く」という表現に直していくと整合性が取れるのかなと思う。

(2) 第6次長期総合計画前期基本計画素案について

事務局から資料2「第6次長期総合計画前期基本計画素案について」について説明後、意見交換及び質疑応答

(会長) この場で意見を全部出すのは不可能だと思う。後日意見シートにより、意見を出してもらいたい。
さて、P69まで説明してもらったが、挙手して意見をいただきたい。

(委員) P11の(1)の②、5年後、10年後を考えたとき、小学校・幼稚園・保育所だけでなく認定こども園なども入れておいた方がよい。100の暮らしの中で「町内会」という言葉が出ていたので、施策のほうでもどこかに町内会という言葉を入れてほしい。小さなことがつながって結晶になってほしいと思う。

(事務局) P11については、追加させていただきます。町内会という言葉についてはP12の(1)の③が「PTAや子ども会活動など」とあるが、こちらにも地域活動的な表現を付け加えるかどうか検討させていただきたい。また塩の結晶という表現については、取り扱いを検討させていただきたい。

(会長) 町内会については課題がたくさんあるので、再定義とか再活性化をしながらつなげていくという工夫が大事になってくると思う。

(委員) 1点目は成果指標について、目標値の根拠の説明がほしい。備考に目標値設定の考え方を書いてほしい。
2点目は、産業のところ。水産業・水産加工業については、人材確保の問題がある。塩竈というより国全体の問題。国がしっかりやらないと水産加工業自体が何ともならない。国との連携も含めた人材確保について施策では触れていない。
3点目は浦戸。触れてもらうのは大賛成。浦戸はPRが不足している。浦戸に行ったことのない市民がほとんど。学校の遠足やイベントのような、市民が必ず行くような仕組みを作ってもらいたい。塩竈の目玉として活用すべきである。

(事務局) 成果指標全般について、根拠はこの資料では明確となっていないので、工夫して次回までに示したい。産業の人材確保については施策に書くべきというご指摘もあったので、修正を検討したい。浦戸のPRが足りないのご指摘。浦戸については、分野を設けることによって重要性を出しており、その中でもPRの施策は掲げている。実施計画で具体的に検討させていただければと考えている。

(会長) 外国人の技能実習生については国との連携が重要。積極的に施策を打ち出していくという姿勢は大事だと思う。浦戸については、若者が注目しだしている。浦戸で藍染めをしたいという若者もいる。若者の力を広げてあげるような仕組みがあると、インフルエンサーとして起用しやすい。

(副会長) 感想が2つ。観光の入込客は政府として5000万人増を掲げているが、3000

万まで行ったところでコロナで減少した。いずれコロナが解消されればおそらく回復していくと思うが、P44の観光の目標値はこのままで良いかというのがひとつ。

もうひとつは浦戸は地元の人が行かない。これは小学校や幼稚園の社会科見学で行ってもらおう。すると子どもたちが家庭で話す。というようにスライドしていけば、長期的には視線が浦戸へ向くようになる。時間はかかるがそういう要素はあるんじゃないか。

提案としてはP26、P29の消防団員、全国的にこういうエッセンシャルボランティアが減ってきている。仙台の事例では、仙台市と東北福祉大学の間で学生の消防団を組織する協定を結んだ。結果的に学生が消防団を支えることになった。学生側も、市がインセンティブとして証明書を発行しているので、それが就職活動にアドバンテージとして使える。

P29の成果指標を消防団員の数にして、学生に裾野を広げる。高校生がやれば、多分日本初になる。ひとつ検討してほしい。

2点目は地域ブランド。塩竈ブランドについてはP44の指標に入れた方が良い。具体的には塩竈ブランド認定の数を入れて、0からこんなに出来ましたよと市民にも見える化できて内外に示すことが出来る。

それからP48とP51。平成18年に教育基本法の見直しがあって、我が国と郷土を愛する心を各教育委員会にやりなさいと通達した。茨城県高萩市がやったのは、ご当地検定。これは指標化がしやすい。多分子どもたちが理解すると大人に伝搬していくし、子どもたちが大人にスライドしていくと、これは下地になっていく。

4点目はP59の協定の締結件数。大学と協定を結ぶのは、「何で」協定を結ぶかということが大事。高萩市は包括協定にした。総合的なものは国立大学。福祉に強いとか健康に強いとか特化したものはほかの大学とした。また、企業とやるときはどういうふうに結ぶか検討する必要がある。

(会長) ご当地検定は商工会がやるイメージだが高萩市では市でやったのか。

(副会長) 高萩市は、市の教育委員会がやった。

(事務局) 指標の提案ありがとうございます。消防団員数、ブランドの認定数、ご当地検定等、まずは内部で検討したい。連携について、これまでも様々な協定を結んでおり、七十七銀行、みやぎ生協と協定をしていて企業とのマッチングイベントへの参加などさせていただいている。青山学院大学とは、震災を機に包括協定しており、夏休み中の子どもの学習支援について等一緒に取り組んでいる。

(副会長) 福祉大と商工組合でもやれそう。仙台市の前例があるので学生が乗ってくるのでは。

(委員) 浦戸についてもうひと押ししていただければと思う。浦戸を巡るような施策があればと思う。また、100の暮らしに菜の花については書いてあるが、桂島は水仙づくりがとても盛んなので、水仙という言葉も入れていただきたい。

(会長) では事務局のほうでご検討いただくのでよろしいか。

(事務局) はい。

- (委員) 氏子青年会の少年団で毎年ブルーセンターに1泊で出かけ、子どもたちが大変喜んでいる。
P42の鹽竈神社のことにに関して、年間に3度お祭りをしているので、そういう詳細を書いてもらえるとP46も生きてくるので追加をお願いしたい。また、観光客は現状維持ではなく目標値はもう少し高く持ってもよい。
- (事務局) 交流に神社のお祭りの表現について入れ込みたい。入込客数目標値の設定の考え方についても再度検討したい。
- (委員) P67の浦戸の目標値の根拠は、今具体的な裏付けがある数値なのか、ただの目標なのか。
- (事務局) 浦戸ブランドについては、現状はバー(一)となっているが、6次産業化の取組により、のりの佃煮や味付のりなどが開発されている。今現在これというものはまだないが、浦戸の海産物農産物を活かした商品を開発していくというもの。
地域おこし協力隊受入人数については、現状2名いて、桂島でのりの養殖、寒風沢で刺し網漁をやっている。現在は2名であるが、年間1名確保して計7名の目標値としているものである。
- (副会長) P43の(2)戦略的なプロモーションの推進とあるが、具体的な方法として著名人が塩竈をPRするやり方がある。山寺宏一さんが塩竈市出身。モノマネとか声優として有名な方で、さかなクンのモノマネをしているがものすごく似ている。塩竈は水産業・海・みなとまちのイメージがあるので、さかなクンと山寺宏一とで親和性が高いと考えている。そういうインフルエンサーの協力を交渉できる余地はあるのではないかな。

(3) しおがま未来創生プロジェクトについて

事務局から「しおがま未来創生プロジェクトについて」について説明後、意見交換及び質疑応答

- (会長) 基本計画の要素を、横串を通して横断的に見たいということでループ図をつくってもらって、「これをちょっと確認しておこう」「特にこの部分を強く押そう」というのを見えやすくした。縦割り行政を打破して横串を通すという意味で、総合計画ではあまり見られない野心的な提案。皆さんからも関連性という観点で意見をいただきたい。
- (委員) KPIについて、具体的な数値が書いてあるが、目標の考え方について聞きたい。進行管理をする時に、令和8年度になった状況で確認するのか、あるいはもう少し細かく確認するのか。目標値を達成しなくても施策が間違っていないときもある。
- (事務局) KPIの根拠等について示せるように修正したい。また、進行管理だが、基本的には成果指標は毎年度とれる指標で設定している。やはり定期的に成果指標を

確認して進捗管理しないと今後の見通しが取れない。また、前期基本計画なので、なるべく早い段階で総括的なものを出して後期につなげていくということが必要になるので、毎年度定期的に進捗を管理したい。

(会長) P89の空き家の利活用件数についてちょっと心配な点がある。空き家のうちである程度クオリティを保っていて活用できる空き家は1~2%くらいしかない。目標値が100件だと、10000件の空き家が必要になってしまうが考え方はどうか。

(事務局) 今、空き家の実態調査を行っている。その結果次第によっては若干変動する可能性がある。

(4) 次世代枠分科会について

事務局から「次世代枠分科会について」について説明後、意見交換及び質疑応答

(会長) どうもありがとうございました。これについて佐々木先生から補足説明をお願いします。

(副会長) 総合計画を作るにあたって次世代枠は宮城初の取り組みと思われる。一方で、この場でここにいる皆さんが次世代の意見を代表して述べるのは難しいので、次世代枠とは何をするかということの整理から始めた。ひとつは次世代につないでいく役割。次世代にこれをどう見せて伝えていくかということのを重要視してデザインや見せ方を議論している。具体的には時系列の整理。「100の暮らし」に描かれているのは未来ではなく、今を大切にしたい、昔の暮らしもというあたりの整理から始めて、必要なところは概念図等をつくる手伝いをした。それから冊子ができて、その概要版は若者向けのダイジェスト版もつくろうと話合っている。もうひとつは循環のイメージ。どうしても分野ごとのイメージだと、全体でどうつながるか分からない。また、次世代のワークショップではループ図についても意見を出した。

(委員) ターゲットを30代中ごろくらいまでとし、これから塩竈に住んでくれるかもしれない世代に対して、10年間塩竈はこういうふう流れていくので一緒に塩竈住みませんかというお誘いのようなものになればいいと思っている。

(委員) ダイジェスト版はより多くの方に少しでも総合計画を身近に感じてもらいたいと思って作っている。市民の皆さんが総合計画に目を通す機会はほとんどないと思うので、市民との距離が近づけられるものを作りたいと思っている。

(委員) これの一番大事なことは、とにかくターゲットの世代に手にとってもらう、一瞬でも市のことを考えてもらうきっかけをつくることだと思う。言い方は悪いが、どれだけふざけたものを作るか。ふざけた面白いものにしていきたい。

(委員) ダイジェスト版をつくるにあたって、市外の人に住みたいなと思ってもらえるようなものにしたい。観光に行きがちではあるが、来ていただいてにぎわいが、

というふうに全部つながっていくものだと思うので。

- (委員) 今までになかった次世代枠というものを作っていただいた中で、若いもの、次世代枠の中で力になりたい、残したい思いがあったので光栄だし、とても意義があることだと思う。内容については、奇抜なものにしていかないと手にとってもらえない。市民の皆さんから前向きな意見をいただけたらと思っている。
- (副会長) ここで示された海と社という歴史と自然に立脚しつつも、塩竈のひとつの特徴である若い方の力をどのように見せるかという、ここにいる皆様がえっと思うものをつくりたいので皆さんも暖かく反応していただければと思う。
- (会長) 港でドローンでやってもいいよね。ビートルズにしたって、映画にしたって漫画にしたって、やがてスタンダードになっていく。それはやっぱり若い人たちの力で作っていくものだと思うので、何も気にしないで思い切ってやってほしい。それがスタンダードになって新しい塩竈になっていく。未来は若い人たちが切り開いて行くものだから。

(4) パブリックコメントの実施について

事務局から「パブリックコメントの実施について」について説明後、意見交換及び質疑応答

- (会長) どうもありがとうございました。何か意見は。
- (委員) 意見の募集について、指定の場所に案内を貼ったり、HP で公表したりをイメージしているが、塩竈市で始まったLINE での周知はするのか。
- (事務局) LINE でも実施している旨を周知していく。
- (副会長) 資料4の3の(6)に「利害関係のある方」とあるが、利害関係という言葉を使わない方が良いのでは。私は抵抗がある。
- (事務局) この表現については、パブリックコメント手続実施要綱を定めており、その内容を転記しているものである。
- (会長) 委員の皆様にはご意見を出していただきありがとうございました。
- (事務局) 委員の皆様、柳井会長、ありがとうございました。事務局の方から、1点。お配りしております月見ヶ丘小学校の修学旅行先での塩竈市のPRの取り組みについて、佐藤委員からご説明お願いしたい。
- (委員) たまたま私が会津若松のほうにいく用事があって、有名なとんかつ屋さんでお昼を取ろうと入ったら、主人がこの塩竈ガイドを見つけた。月見ヶ丘小学校の児童が修学旅行先の会津若松のお店で、作成した塩竈ガイドを置いてくださいと言って置いてもらったらいい。1冊にまとめてPRしている。これは100の暮らしの交流の分野に当たると思う。もし先ほどのご当地検定をしたら子どもたちは高得点になるなあと。子どもたちがこういうPRをしているというこ

とにびっくりして、皆さんにご報告しようと写真を撮ってきた。

(事務局) 塩竈市内の小学校は、修学旅行は必ず会津若松のほうに行くのかなと思っている。小学生のこういった活動も含めて塩竈市と会津若松市の交流につながれば。

(委員) お店の人も会津でとても有名な人で会津でのPR活動もすごい。プロジェクトを作ってやっている。私も塩竈をPRしてきた。

(事務局) 今後につながるような取り組みにしていきたい。ご報告ありがとうございます。本日、資料、説明がかなり多くて自由な意見を頂けなかった部分もあると思うので、意見票を用意した。8月6日までにご提出いただければと思う。

5. 閉会

(事務局) 次回第9回は8月24日火曜日を予定している。今回いただいた意見、またこれから実施するパブリックコメントを踏まえて、十分に反映させて総合計画をつくりあげたい。本日はありがとうございました。